

## ◆ 【御船印めぐりの旅】 - 神新汽船株式会社 - 「フェリーあぜりあ」で新島に渡る

川端康成の小説「伊豆の踊子」の舞台として有名な静岡県の下田港。  
「フェリーあぜりあ」は、この下田港と伊豆4島（神津島・新島・式根島・利島）を結ぶ海  
の架け橋として、各島民のライフラインを担っている。伊豆諸島航路初のカーフェリー  
として活躍する「フェリーあぜりあ」に乗船して、新島の海を堪能した

神新汽船株式会社は、昭和52年に東海汽船株式会社と神津村・新島村の  
共同出資により設立され、昭和53年から運航を開始した。

昭和63年には貨客船「あぜりあ丸」を竣工し、式根島と利島に航路を広げ、  
旅客と生活物資輸送を通して島々に暮らす人々のライフラインを担った。

2014年12月に「あぜりあ丸」の代替船としてデビューした「フェリー  
あぜりあ(現行)」は、日本屈指の透明度を誇る伊豆4島の海へ、マイカーで  
行くことができる伊豆諸島航路初となる画期的なカーフェリーとして注目を  
集めた。

### 新島を歩く

美しい自然が残されている島で、黒潮に乗って多くの海洋生物が島周辺に集まり、ミナミ  
ハンドウイルカやウミガメ、マンタなど非常に貴重な生物が見られることもある。

気候は年間を通じてやや温暖で、常夏というほどではないが、降雪することはめったにない。

また、外洋に面しているため風の強い日が多く、特に冬は「西ん風」と呼ばれる強い西風が  
毎日のように吹く。東京からわずか160キロメートル南に位置するものの、空気は非常に  
清浄で、星空や海の美しさは際立っている。

地質は流紋岩が多いため、島全体を通して砂や地面が白く、美しい砂浜を形成している。  
主に採掘される石は、イタリアのリパリ島と、天城山、伊豆諸島北部でしか産出されない  
抗火石（コーガ石）というもので、建築用、装飾用として珍重されている。

### 羽伏浦海岸

約7キロメートルにおよぶ白い砂浜が伊豆諸島の中でも最も長く美しいといわれるビーチ  
で、ハワイのノースショア並みの良質の波にも恵まれているため、サーフィンの世界大会も  
開催される。近くには「石の動物園」や羽伏浦キャンプ場（新島スポーツ広場）があり、新島  
のコーガ石で彫刻された動物たちが迎えてくれる、子どもたちが楽しめるスポットとなっ  
ている。

### 石山展望台（向山）

向山にある、新島の貴重な資源であるコーガ石の産地で、壮大なスケールの採掘場の面積は、  
数平方キロメートルといわれている。採掘場を抜けると眼下に広がる青い海と、そこに浮かぶ  
島々を見渡すことができる。

展望台の標高は235メートルで、式根島や神津島を見渡せるほか、晴天時には伊豆大島や

伊豆半島も望むことができる。

### **モヤイ像**

新島には古くから「モヤイ」と呼ばれる美しい風習がある。島民が力を合わせる時に使われる言葉で、共同の意識から生まれた精神であり、素朴な人々のやさしい心を表す。新島には、島のいたるところで、この巨石に顔を彫ったモヤイ像を見ることができる。

### **御 船 印**

一般社団法人日本旅客船協会の公認事業である「御船印めぐりプロジェクト」では、参加会社の船や航路ごとに発行するさまざまな御船印を集めることができる。

御船印とは、神社仏閣めぐりで集められる御朱印の船バージョンで、日本各地の船をめぐる船旅の楽しみをさらに盛り上げるため、プロジェクトに参加する船会社のオリジナルの御船印帳・御船印紙を購入し、旅客船や観光船などに乗船した際、船旅の思い出を彩る記念の押印（スタンプ）をいただくもの

「海員だより」